

## 鹿角市消防団の組織改編計画（案）

### 1. 目的

鹿角広域行政組合消防本部では、鹿角市消防団の現状及び消防団が抱えている問題点等の解決に向け、平成18年に「市民を守る魅力ある消防団づくり」基本計画を策定し、以後見直しを行いながら、消防団を魅力ある組織にするための環境整備のほか、女性消防団員や消防団協力事業所における機能別消防団員など、実情に合わせた採用に取り組むことで、団員の確保に努めてまいりました。

しかし、近年少子高齢化が進むなかにおいて、団員の確保は厳しい現状にあり、令和5年4月1日現在の実員数は749人と、定員から大きく乖離している現状であることから、消防団員の定員等の見直しを進めるものです。

### 2. 鹿角市消防団の変遷

- ・昭和47年4月 町村合併により「鹿角市連合消防団」発足。  
組織体制／4団39分団 定員／1,132人
- ・昭和54年9月 統合整理により「鹿角市消防団」発足。  
組織体制／17分団39部 定員／1,150人
- ・平成3年4月 条例改正  
組織体制／17分団38部 定員／930人
- ・平成4年4月 条例改正  
組織体制／17分団38部 定員／892人

鹿角市消防団員定数及び実員の推移

各年度4月1日現在

年度	定数 (人)	実員 (人)	充足率 (%)	備考
昭和46年度	352	352	100.0	
昭和47年度	1,132	1,018	89.9	鹿角市及び鹿角市連合消防団発足 昭和47年4月1日
昭和48年度	1,132	1,127	99.6	
昭和49年度	1,132	1,132	100.0	
昭和50年度	1,132	1,132	100.0	
昭和51年度	1,132	1,125	99.4	
昭和52年度	1,132	1,122	99.1	
昭和53年度	1,132	1,124	99.3	
昭和54年度	1,150	1,113	96.8	定数改正 昭和54年9月1日鹿角市消防団発足
昭和55年度	1,150	1,150	100.0	
昭和56年度	1,150	1,140	99.1	
昭和57年度	1,150	1,138	99.0	

年度	定数 (人)	実員 (人)	充足率 (%)	備考
昭和58年度	1,150	1,123	97.7	
昭和59年度	1,150	1,123	97.7	
昭和60年度	1,150	1,131	98.3	
昭和61年度	1,150	1,121	97.5	
昭和62年度	1,150	1,096	95.3	
昭和63年度	1,150	1,051	91.4	
平成元年度	1,030	1,001	97.2	定数改正 平成元年4月1日
平成2年度	1,030	942	91.5	
平成3年度	930	884	95.1	定数改正 平成3年4月1日
平成4年度	892	878	98.4	定数改正 平成4年4月1日
平成5年度	892	870	97.5	
平成6年度	892	867	97.2	
平成7年度	892	853	95.6	
平成8年度	892	844	94.6	
平成9年度	892	855	95.9	
平成10年度	892	818	91.7	
平成11年度	892	818	91.7	
平成12年度	892	824	92.4	
平成13年度	892	826	92.6	
平成14年度	892	827	92.7	
平成15年度	892	825	92.5	
平成16年度	892	815	91.4	
平成17年度	892	799	89.6	
平成18年度	892	795	89.1	
平成19年度	892	797	89.3	機能別消防団員施行 平成19年4月1日
平成20年度	892	814	91.3	
平成21年度	892	837	93.8	
平成22年度	892	851	95.4	
平成23年度	892	821	92.0	
平成24年度	892	822	92.2	
平成25年度	892	826	92.6	
平成26年度	892	836	93.7	
平成27年度	892	836	93.7	
平成28年度	892	853	95.6	定年延長
平成29年度	892	859	96.3	
平成30年度	892	822	92.2	
平成31年度	892	813	91.1	
令和2年度	892	796	89.2	
令和3年度	892	778	87.2	
令和4年度	892	760	85.2	
令和5年度	892	749	84.0	

### 3. 鹿角市消防団の組織体制及び定員の見直しについて

組織体制 17分団37部

定員 820人

### 4. 鹿角市消防団組織及び車両・資機材等の見直しの内訳について

(花輪地区)

分団名	現行					改正案					説明	
	部	地域	種別	定員	現有員	部	地域	種別	定員案	現有員		
第1分団	第1部	六日町	消防車	23	20	第1部	六日町	消防車	23	20		
	第2部	旭町	消防車	23	11	第2部	旭町	消防車	24	11	・定数増加	
第2分団	第1部	下川原	全自動	21	13	第1部	下川原	全自動	16	13	・定数削減	
		高屋	可搬				高屋	可搬				
	第2部	花軒田	積載車	21	21	第2部	花軒田	積載車	21	21	・用野目に狐平を統合	
		用野目	積載車				用野目	狐平				
		狐平	可搬				狐平	可搬				
第3分団	第1部	西町	積載車	24	24	第1部	西町	積載車	30	24	・定数増加 ・乳牛に軽積載車を配備	
		東町	積載車				東町	積載車				
		乳牛	可搬				乳牛	軽積載				
	第2部	高市	消防車	29	23	第2部	高市	消防車	25	23	・定数削減 ・鶴田に軽積載車を配備	
		上台	積載車				上台	積載車				
		鶴田	可搬				鶴田	軽積載				
第4分団	第1部	小平	積載車	26	26	第1部	小平	積載車	26	26		
		級ノ木	積載車				級ノ木	積載車				
		新斗米	可搬				新斗米	可搬				
	第2部	寺坂	積載車	27	22	第2部	寺坂	積載車	27	22		
		小枝指	積載車				小枝指	積載車				
		館	軽積載				館	軽積載				
				194	160					192	160	

車両等台数	
消防車	3
積載車	10
軽積載	1
可搬	5

※積載車に全自動含む

車両等台数	増減	
消防車	3	0
積載車	10	0
軽積載	3	2
可搬	2	-3

※積載車に全自動含む

器具置場
19

器具置場	増減
18	-1

(尾去沢地区)

分団名	現行					改正案					説明	
	部	地域	種別	定員	現有員	部	地域	種別	定員案	現有員		
第5分団	第1部	下モ平	消防車	38	27	第1部	下モ平 上山 尾去	消防車	30	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定数削減</li> <li>・上山と尾去は下モ平に統合</li> </ul>	
		上山	可搬									
		尾去	可搬									
第6分団	第1部	市街地	消防車	28	22	第1部	市街地 山方	消防車	25	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定数削減</li> <li>・山方は市街地に統合</li> </ul>	
		山方	可搬									
	第2部	中新田	積載車	15	7	第2部	中新田 下新田	軽積載 可搬	10	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定数削減</li> <li>・R5中新田に軽積載車を配備</li> </ul>	
		下新田	可搬									
				81	56					65	56	

車両等台数	
消防車	2
積載車	1
軽積載	0
可搬	4

車両等台数		増減
消防車	2	0
積載車	0	-1
軽積載	1	1
可搬	1	-3

R5整備予定

器具置場	
	7

器具置場		増減
	4	-3

(八幡平地区)

分団名	現行					改正案					説明					
	部	地域	種別	定員	現有員	部	地域	種別	定員案	現有員						
第7分団	第1部	谷内	消防車	37	31	第1部	谷内	消防車	37	31						
			可搬					可搬								
	第2部	永田	可搬	25	23	第2部	熊沢	軽積載	25	23						
			積載車					積載車								
第8分団	第1部	夏井	積載車	30	33	第1部	夏井	積載車	30	33	・ 深を坂比平に統合 ・ 檜内を林崎に統合					
			可搬					可搬								
			林崎					可搬				20	20	第2部	長牛	積載車
								可搬								積載車
	第2部	桃枝	可搬	20	20	第2部	桃枝	積載車	20	20						
			可搬					積載車								
	第9分団	第1部	小豆沢	消防車	32	25	第1部	小豆沢	消防車	30		25	・ 定数削減 ・ 上村を小豆沢に統合			
				可搬					可搬							
第2部		湯瀬	消防車	28	23	第2部	湯瀬	消防車	27	23						
			可搬					可搬								
第10分団	第1部	大里	積載車	27	27	第1部	大里	積載車	27	27	・ 定数削減 ・ 黒沢を石鳥谷に統合し 石鳥谷に積載車を配備					
			可搬					可搬								
	第2部	松館	積載車	35	27	第2部	松館	積載車	32	27						
			可搬					積載車								
第11分団	第1部	三ヶ田	消防車	36	35	第1部	三ヶ田	消防車	36	35	・ 長内、白欠を三ヶ田に 統合					
			可搬					可搬								
			白欠					可搬				26	25	第2部	長嶺	積載車
								可搬								積載車
	第2部	荒町	可搬	26	25	第2部	川部	可搬	26	25						
			可搬					可搬								
					296	269						290	269			

車両等台数	
消防車	4
積載車	6
軽積載	1
可搬	17

車両等台数		増減
消防車	4	0
積載車	7	1
軽積載	1	0
可搬	7	-10

器具置場	
26	

器具置場		増減
19		-7

(十和田地区)

分団名	現行					改正案					説明
	部	地域	種別	定員	現有員	部	地域	種別	定員案	現有員	
第12分団	第1部	五軒町	全自動	29	8	第1部	五軒町	全自動	25	12	・定数削減 ・中野を第1部に統合
			消防車					消防車			
	第2部	甚兵衛川原	積載車	10	8	第2部	中野	積載車	5	8	
	第3部	瀬田石	積載車	9	7	第3部	甚兵衛川原	積載車	6	7	
第4部	中野	積載車	9	4	第2部	瀬田石	積載車	5	8	・定数削減	
第13分団	第1部	下芦名沢	積載車	25	16	第1部	下芦名沢	積載車	16	16	・定数削減 ・高清水を下芦名沢に統合
		上芦名沢	可搬				高清水	可搬			
		高清水	可搬								
第14分団	第1部	松ノ木	消防車	20	14	第1部	松ノ木	消防車	15	14	・定数削減 ・新田を松ノ木に統合
		神田	可搬				神田	可搬			
	第2部	錦丁	積載車	9	9	第2部	錦丁	軽積載	9	9	・軽積載車に更新
	第3部	浜田	積載車	25	24	第3部	浜田	積載車	18	24	・定数削減 ・浜田に根市戸を統合
根市戸		可搬	根市戸				可搬				
第15分団	第1部	松山	積載車	17	10	第1部	松山	積載車	17	10	・松山に松山入口を統合
松山入口		可搬	松山入口				可搬				
第2部		大欠	積載車	17	8		第2部	大欠	軽積載	12	
第3部	土深井	軽積載	9	12	第3部	土深井	軽積載	9	12		
第16分団	第1部	中田	消防車	36	25	第1部	中田	消防車	36	25	・中田に堀内を統合 ・中滝と箒畑を統合し積載車を配備
		中滝	可搬				中堀内	消防車			
		箒畑	可搬				中滝	積載車			
		堀内	可搬				箒畑	積載車			
	第2部	中田	消防車	17	13	第2部	中田	消防車	17	13	
第3部	関上	積載車	17	10	第3部	関上	積載車	17	10		
	腰廻	可搬				腰廻	可搬				
第17分団	第1部	一本木	積載車	16	8	第1部	一本木	積載車	15	8	・定数削減 ・一本木に倉沢を統合
		倉沢	可搬				倉沢	可搬			
	第2部	中草木	積載車	16	11	第2部	中草木	積載車	16	11	
		二本柳	可搬				二本柳	可搬			
	第3部	下草木	積載車	20	17	第3部	下草木	積載車	20	17	・下草木に丸館と新田を統合
丸館		可搬	丸館				可搬				
		新田	可搬			新田	可搬				
				301	204				253	204	

車両等台数	
消防車	4
積載車	13
軽積載	1
可搬	14

※積載車に全自動含む

車両等台数		増減
消防車	4	0
積載車	12	-1
軽積載	3	2
可搬	4	-10

※積載車に全自動含む

器具置場	
	30

器具置場		増減
	20	-10

## (地区全体)

項目	地区	現行	改正案	増減	現有員	充足率		備考
						現行	改正案	
消防団員 定員	花 輪	194	192	-2	160	82.47%	83.33%	
	尾去沢	81	65	-16	56	69.14%	86.15%	
	八幡平	296	290	-6	269	90.88%	92.76%	
	十和田	301	253	-48	204	67.77%	80.63%	
	計	872	800	-72	689	79.01%	86.13%	
	団本部	20	20	0	18	90.00%	90.00%	
	事業所	—	—	—	42	—	—	
	合計	892	820	-72	749	83.97%	91.34%	

車両・資機材等	地区	現行	改正案	増減	備考
消 防 車	花 輪	3	3	0	
	尾去沢	2	2	0	
	八幡平	4	4	0	
	十和田	4	4	0	
	計	13	13	0	
積 載 車	花 輪	10	10	0	
	尾去沢	1	0	-1	
	八幡平	6	7	1	
	十和田	13	12	-1	
	計	30	29	-1	
軽 積 載	花 輪	1	3	2	
	尾去沢	0	1	1	
	八幡平	1	1	0	
	十和田	1	3	2	
	計	3	8	5	
可搬ポンプ	花 輪	5	2	-3	
	尾去沢	4	1	-3	
	八幡平	17	7	-10	
	十和田	14	4	-10	
	計	40	14	-26	
器具置場	花 輪	19	18	-1	
	尾去沢	7	4	-3	
	八幡平	26	19	-7	
	十和田	30	20	-10	
	計	82	61	-21	

## 5. (参考) 消防団員の定員について

「消防力の整備指針」では、消防団は火災の鎮圧、予防、警戒をはじめ、救助、大規模災害時等における避難誘導を業務とし、その総数は地域の実情に応じて必要な数とされています。

これを踏まえ、定員見直しにあたり参考となる基準について、次のとおり算定します。

### (1) 火災に対応するために必要な団員数

整備指針における消防隊の隊員数(消防ポンプ自動車等の操作に必要な人員(消防ポンプ自動車1台につき5人、手引動力ポンプ又は小型動力ポンプ1台につき4人))を参考に算定します。

① ポンプ車 13台×5人=65人

② 小型ポンプ 51台×4人=204人 269人 (A)

ポンプ車及び小型ポンプの台数は、「4. 鹿角市消防団組織及び車両・資機材等の見直しの内訳について」による。

### (2) 大規模災害時等における避難誘導に必要な団員数

整備指針の平成17年改正の際の考え方※を参考に算定します。

※公立小学校のある地域内の面積(山林、農地は除く)を0.06~0.09平方キロメートル(地域事情により調整)で除して得られた数に1.1を乗じ、自然災害の発生の蓋然性等を勘案した数を加えた数。

①  $38.31\text{km}^2 \div 0.09 \times 1.1$  468人 (B)

面積内訳

小学校	面積(km <sup>2</sup> )	小学校	面積(km <sup>2</sup> )
花輪小学校	7.93	八幡平小学校	6.65
柴平小学校	10.55	十和田小学校	6.01
尾去沢小学校	2.85	大湯小学校	4.32
		計	38.31

(3) 上記合計 737人 (A+B)